

2018年3月15日 市民タイムス「科学の甲子園へ」

(第3種郵便物認可)

数学や理科、情報科目の知識や技能をチークで競う「第7回科学の甲子園全国大会」の開幕に向けて、松本秀峰中等教育学校5年生(高校2年生)の男子8人によるチームが、事前に与えられた実技競技の課題対策に取り組んでいる。ハンド形の翼のある「はばたき機」と無線による給電装置を制限時間内に製作してレースをする競技で、8人は早く、滑らかに動ける機体づくりの知恵を絞り、試行錯誤を重ねている。

昨年11月の県大会で総合優勝し、全国大会への切符を手にした。



全国大会に向けて  
課題の研究に励む  
メンバーアイ

沢龍君、上村直幹君、川原航君、太田一輝君、山下真君の6人に、郷原一生君と萩元亮太朗君の2人が加わる。いずれも17歳で、中学入学当初から一緒だったチームワークの良さが特長だ。

大会直前は毎日、放

市民タイムス

# 秀峰 科学甲子園へ熱く

あす開幕 5年生チーム 課題研究

同校は2年連続2回目の出場になる。さいたま市で16~19日に開催される大会では、47都

道府県の各大会を勝ち抜いたチームと競う。

競技は知識を問う筆記と実技があり、実技は事前と当日にそれぞれ示される課題に臨む。8人は、県大会に出場した古屋大紀君、松

澤君、上村直幹君、川原航君、太田一輝君、山下真君の6人に、郷原一生君と萩元亮太朗君の2人が加わる。いずれも17歳で、中学入学当初から一緒だったチームワークの良さが特長だ。

(田子元氣)

課後の時間を利用して課題の研究に取り組んだ。リーダーの古屋君は「長野県のチームは10位以上がないので、まずは上位を目指し、その先に優勝も見据えた」と意気込む。全

国大会は国立研究開発法人科学技術振興機構の主催で、優勝すると来年5月に米国で開かれる「サイエンスオリエンジニアード」の出場権を得る。

だ。